

日本学術会議  
放射性核種による汚染に係る環境浄化の基礎科学に関する委員会  
(第23期・第4回)  
議事要旨

1. 日時：平成29年5月8日（月）16：00～18：00

2. 会場：日本学術会議5階 5-A（1）会議室

3. 出席状況

出席者：花木委員長、家副委員長、大貫幹事、前川幹事、南條委員、大西委員、今田委員、  
甲斐委員、巽委員、恩田委員、佐々木委員、高橋委員、竹下委員、中西委員  
(14名)

事務局：石井参事官、松宮補佐、大橋専門職付、大庭専門職付、石尾専門職付、堀尾学術  
調査員

4. 資料等：資料1 前回議事要旨案

資料2 提言案

参考1 委員名簿

5. 議事

(1) 前回議事要旨案の確認

・12頁の「AGS」を「ADS」に修正することとし、承認された。

(2) 意思の表出について

・大貫幹事より、資料2に基づき、当委員会の提言又は報告の素案について、複数のパートに分けて説明があった。その後、それぞれのパートについての議論が行われた。

(主な議論の内容)

- ・1頁上から3行目の「除去」というのは誤解される可能性があるのでは。「環境浄化」をどう定義するのが重要。
- ・1頁下から2つめのパラグラフ、「提案している」は、主語がわかりにくいと思う。
- ・背景の「環境浄化」について、何をターゲットにするかということが重要。単なる健康影響というくくりで表すのか、様々な場面によりそった環境浄化のための基礎科学ということなのか。後者のほうがあまり出てこないように思う。
- ・本文にはそのようなことも記載されているので、環境浄化をやや広めにとるということを、背景の部分でも記述すると良いか。
- ・題名について、「浄化」というところのみにフォーカスがあるように思えるので、「挙動予測と環境浄化の基礎科学」といった題名はどうだろうか。
- ・環境浄化と言いながら、内容は移行挙動も多くなっている。

- ・題名を変えるとすると「放射性核種の挙動予測や環境浄化」などか。
- ・国際共同体の方は環境浄化がメインなのか。共同体の名前は特に入っていないようだが。
- ・共同体の名前は特にまだ聞いていない。
- ・3頁めの「核開発関連施設などはすでに70年以上存在し～」の部分は少し意味を取りにくいと思う。
- ・Grambow氏の提案書による。70年ではなく、「長期」といった表現が良いか。
- ・長期の管理の必要性がある、といったニュアンスだろうか。
- ・全体を読んだ印象として、現状と課題の記述が多く、提言は少ないと思うので、提言ではなく報告としてまとめるのが良いのではないだろうか。
- ・国際共同体の必要性を縷々述べ、次のステップへの余地を残した報告とするのも良いと思う。
- ・今回は報告とするのが良いか。
- ・提言の場合「誰に対して」が明確である必要があると考える。報告ののちに提言するといった2段階の方法もある。
- ・現時点では報告だと思う。既存の学会との境界・違いの表現を、背景に入れると良いのではないか。
- ・後半（3以降）はオンサイトの話であり、これまでの話とは違っている。また、基礎科学には海水のことも入れると良いと考える。
- ・人材育成の話も入れると良いのでは。
- ・現状、ポスドクの交流等はあるのか？
- ・韓国、中国からの問い合わせなどはよくある。この件については日本にアジアの中心という役割があると思う。
- ・題名は「放射性核種の移行挙動の解明と環境浄化に関する国際共同基礎研究の推進」とする。

#### 【ICSU 理事会について】

- ・4月24、25日のICSU理事会（パリ）で、Grambow氏から15分ほどの説明があった。日本の関係のデータも出されており、議論がされた。意義が認められたと考える。

#### 【今後について】

- ・報告案について、本日の議論を踏まえた修正版を作成、委員に回覧した上で委員長にて取りまとめ、確定とし、それを査読に提出する。
- ・今回の議事要旨についても、同様に委員に回覧の上で、委員長にて取りまとめ、確定とする。

（閉会）